

手探りの宝さがし

今は多くの取り組みを行っている赤池26区ですが、最初から順調だった訳ではありません。阿世賀区長は教員時代、地域活動を奥様に任せっきりで、隣近所の方と話したことすらない、そんな状態で区長になって1年目は、役員すら揃わず、ほとんど何もできませんでした。2年目以降、周りの方の知恵や力を借り、手探りで少しずつ取組を増やしていきました。

教員を務めるだけあって、子どもが好きな阿世賀区長は、登校見守り活動を始めました。最初は1人でしたが、今では6人が、月曜から金曜まで毎日、子ども達を見守っています。参加者は、「毎日活動するのは大変だが、子どもが顔を覚えてくれ、活動外で会った時にも声をかけてくれるのが嬉しい」と口を揃えます。

見守り活動で子どもたちと知り合ったことをきっかけに、寺子屋や卓球大会、クリスマス会などもスタートしました。寺子屋でしっかりと勉強した後、卓球で汗を流す、陶芸教室や茶道体験などの特別企画を催す、クリスマス会では、子どもたちから地域のお年寄りへメッセージ付クリスマスリースが贈られました。何年経っても、宝物のように飾られています。

3年目、4年目と、年を追うごとに地区行事を増やしていきました。地区行事を開催するにあたって心がけたのは、大掛かりなものだけでなく、できる範囲でやることです。夏祭りでは、役員の負担が大きい神輿の制作をやめ、作品展示や落語、コンサートなどを毎年企画し、年末には、1年の節

目として、地域住民が「顔を合わせ、声を合わせ、力を合わせる場」としてもちつき交流会を開催しています。

最近では、頻発する自然災害への備えのため、「災害図上演習DIG学習会」を開催。危険箇所や災害時要支援者などの情報を出し合い、地図上で見える化を図りました。この学習会は、今後も継続していく予定です。

「地域の方は、いつもありがとうと言ってくれるけど、私の方がありがとうと言いたい。地域活動をするようになって、仲間や絆という大きな宝物を私がもらった」と、阿世賀区長は照れくさそうに語ってくれました。



阿世賀区長の宝物である、仲間との絆

活動への思い

阿世賀区長が考えた、赤池26区のスローガンは、「安全・安心の、絆と人情あふれる地域づくりのために」です。「有事の際に助け合える人間関係を築いておけば、きっと乗り切ることができる」、そう信じ、これまでに紡いできた絆を次の人へ、また次の人へと紡いでいきます。

県庁お知らせ掲示板

ホームページ「ふくおか生涯学習ひろば」をご利用ください

ホームページ「ふくおか生涯学習ひろば」では、県内の生涯学習に関する幅広い情報を発信しています。

様々な分野の講演会・セミナー情報を発信しているほか、大学の公開講座情報も発信しています。是非ご覧ください!



ふくおか 生涯学習

検索

福岡県NPO・ボランティアセンター 092-631-4416

防犯活動を始める団体に補助します

地域の皆さんが子どもの見守りや「ながら防犯」に取り組むために必要な経費の一部を補助します。(既に防犯活動を行っている団体が、その活動を拡充させる場合にも支給の対象となることがあります)

▶対象の団体

自治会、PTA、ボランティア団体など

▶対象の経費

帽子、ジャンパー、のぼり旗等防犯活動用品の購入費など

▶補助金の額

1団体あたり10万円を上限

生活安全課 092-643-3124

きずな

No.16

令和2年  
3月発行



【目次】

つばきいち  
椿市地域交流センター「椿の里」(行橋市)…1・2  
あか いけ  
赤池26区(福智町)……………3・4  
県庁お知らせ掲示板……………4

椿市地域交流センター「椿の里」(行橋市)

椿市に活気を取り戻す!

～椿市地域交流センター「椿の里」(行橋市)～

福岡県東部に位置し、市のほぼ全域が平野部で暮らしやすい環境の行橋市。市の南西部には水田地帯が広がり、近郊型農業が行われています。また、周防灘にも面しているため漁業も盛んです。近年では、一層インフラの整備が進み、京築地区の中核的な都市として着実に発展を続けています。

椿市地区は、行橋市の北西部、平尾台の麓に位置し、農業の盛んな地区です。中心市街地から離れており、行橋市の他の地区と比較して、人口の減少や少子高齢化が顕著となっています。

椿市地区の公民館、保育園、放課後児童クラブ等の施設を集約し、小さな拠点と位置付け、その核となる施設として、椿市地域交流センター「椿の里」を平成30年5月にオープンしました。

センターは、地域交流の拠点施設としての工夫が凝らされており、従来の公民館のように生涯学習活動や地域コミュニティ活動を行う地域住民交流フロアに加え、地域産品の物販コーナー、交流の場となるコミュ

ニティカフェを備えた地域交流促進フロア、イベントの開催や適度な運動ができるふれあい広場で構成されています。

この施設を活用し、地域活性化を図るための組織として、地域住民有志による「一般社団法人つばきの会」が発足しました。雇用対策や買い物弱者対策、地域内外交流、経済循環促進を目指し活動しています。



(左から)椿市地域交流センター 森センター長、行橋市教育部生涯学習課 城戸係長、一般社団法人つばきの会 馬場監事、同 沼口会長

### 地域交流・多世代交流の場であるために

センターでは、地域交流・多世代交流のため、様々なイベントを開催しています。春の菜の花まつりでは、市内外から700人ほどが集まり、1,000万本の菜の花が咲き誇る黄色の絨毯を堪能、菜種油で揚げたコロケに舌鼓を打ちました。このコロケは、イベントでしか食べられない大人気商品で、「揚げ方が全然違う。とにかくおいしいので一度食べてほしい」と、つばきの会イチオシです。

夏には七夕祭りを開催、地元の方を使ったそうめん流しを企画したところ、子どもを中心に120人が参加しました。普段はできない経験に、子どもたちは大盛り上がり。その他にも、秋祭りや節分会など、四季折々のイベントが楽しめます。

夏休みには、養蜂場を営む地域の方からの提案により、みつばち観察会を行いました。初めて間近で見る蜂の巣を、子どもたちは興味津々に覗き込み、みつばちの紙芝居に聞き入っていました。こういった、地域の大人と子どもをつなぐことこそ、つばきの会のいちばんの目標です。着実に、思い描いた未来を実現しています。



七夕祭りでの子供たちがそうめん流し

センターが賑わうのは、イベント時だけではなくありません。普段も、多い日には100人ほどが訪れています。すぐ近くに梶市小学校があるため、平日の下校時には親子で物販コーナーに立ち寄り、お菓子や夕飯の食材などを買って帰る姿がしばしば見られます。

交流フロアでは、多くのサークルが活動しています。取材に伺った日は、囲碁サークルが真剣勝負を繰り広げていました。対局の合間にお話を伺うと、なんと市外から参加している方もいらっしゃいました。

カフェを覗くと、地域の方が食事をしたり、談笑したりしていて、正に地域交流の場といった雰囲気です。つばきの会おすすめメニューはちゃんぽんです。令和元年10月からの新メニューで、冷えた身体を温めてくれます。

物販コーナーには朝採れ野菜やドレッシングなどが並んでおり、見るからにおいしそう。人が増えてきたなど

思っていたら、この日は週に1度、獲れたての魚が販売される日で、陳列された途端にドッと人が押し寄せ、あっという間に完売してしまいました。どうやら、魚が楽しみで、陳列されるのを今か今かと待ちわびていたようです。

センター開設以来、アンケート箱を設置しており、利用者から「カフェのメニューを増やしてほしい」「地域の交流を深める場ができてよかった」などの声が届いています。こういった声が、より良い地域交流・多世代交流の場を築くためには必要不可欠です。



囲碁サークルの活動風景



朝採れ野菜が並ぶ物販コーナー

### 活動への思い

梶市地区の人口は約1,800人、うち小・中学生は150人ほどで、子どもを見かけることが少なくなったと、つばきの会の沼口会長は寂しさを滲ませます。地域に活気を取り戻すため、多世代で盛り上げる地域をつくることを目標にしており、「やりたいことは山ほどあるが、すぐに全てに取り組むことはできない。できることから、少しずつ取り組んでいきたい」「まずは、このような交流施設があるんだということを知ってもらいたい。地区内外の多くの人に知ってもらい、訪れてもらうことで、梶市に活気を取り戻すことができる」と、つばきの会の活動に対する思いを語っていただきました。

つばきの会の取り組みはまだ始まったばかり。子どもからお年寄りまで、活気溢れる地域を目指し、これからもたくさんの方にチャレンジしていきます。

## 安全・安心の、絆と人情あふれる地域づくりのために

～赤池26区(福智町)～

福智町は、福岡県の中中部から北東よりに位置しています。九州最大級のスイーツイベントである「福智スイーツ大茶会」が開かれ、人口約2万3千人の町に、2日間で3万人を超える人が県内外から訪れます。このスイーツ大茶会でも使われる上野焼は、400年以上の伝統を誇る国指定伝統的工芸品として多くの人を魅了しています。

生力ニュータウン集会所を拠点に活動している赤池26区は、平成元年頃から宅地分譲が始まった新興住宅地であり、古くからの地のつながりのない地域です。そこで、住民間のつながりを強めようと立ち上がったのが、平成24年から行政区長を務めている阿世賀区長と役員のみなさんです。



赤池26区 阿世賀区長

### 「シニアいきいき健康体操」で健康・生きがい・関係づくり

毎月第一水曜日、集会所に地域のお年寄りが集合し、楽しそうに体操に励んでいます。高齢になって、立った状態での健康体操では参加が難しくなった方々のため、昨年6月に新たにスタートした、座ったままでできる体操の会です。取材に伺った日は、九州大学のボランティア学生も参加しており、なお一層活気が溢れていました。独自のラジオ体操に始まり、音楽に合わせて手製のスティックを使い身体を伸ばす、輪になって隣の人にボールを手渡しながらしりとりをするなど難度の高いものまで、創意工夫に富んだ内容でした。これらは、「ふくまち運動普及推進員」の方々が考案したもので、足が不自由な方でも無理なく実践できます。

体操後は、みんなでお茶タイム。止まらないおしゃべり、歌や詩吟を披露するなど、ここでもパワーが漲ります。

参加者の方にお話を伺うと、「病気になった夫が家に籠ってしまった。区長が呼びに来てくれ、この体操に参加するようになると、今では何を着て行こうかとウキウキ

している。夫に服を買う楽しみもできた」「夫が車いす生活になってから、滅多に外に出なくなったが、今日、初めてこの体操に参加し、車いすでも十分楽しめた。是非、また参加したい」といった嬉しい声を聞くことができました。また、「同じ地域で暮らしていても知らない人がたくさんいる。こういった行事に参加することで、知り合いが増え、外でも挨拶を交わすなど、交流が増えた」との声もあり、この体操が、健康づくりはもちろん、生きがいや関係づくりにもつながっていることが伝わってきました。



ボールを回しながらのしりとり…意外と難しい！



体操後のお茶タイム

### 地域通信「生力の絆」の発行

阿世賀区長は、中学校教員時代の経験から、地域住民へのお知らせや共通の話題提供のための地域通信「生力の絆」を発行しています。発行開始当初は、月2回程度の発行でしたが、令和元年には週1回発行しており、発行号は累計250号を超えています。この地域通信を、阿世賀区長自ら、地域の全190世帯に配って回ります。配るついでに声掛けもしており、見守りの効果もあります。「この地域通信で、地域の情報を知ることができて本当にありがたい」と、地域の方から大変喜ばれています。